



東北大学



報道機関各位

平成 25 年 2 月 6 日
東北大学大学院医学系研究科
宮城県立循環器・呼吸器病センター

呼吸器疾患および感染症疾患専門医を育成

東北大学大学院医学系研究科と宮城県立循環器・呼吸器病センターとの
連携講座設置について

東北大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」）と宮城県立循環器・呼吸器病センターは、呼吸器疾患および感染症疾患、特に結核を含む感染症の研究・診療拠点として世界をリードするとともに、呼吸器・感染症両分野の研究・診療に従事する優れた専門的人材育成を行い、呼吸器・感染症分野の診療の発展に向けた社会的要請に応える研究・教育活動を連携して推進するために、基本協定及び連携講座に関する協定を締結いたします。

背景

呼吸器疾患は、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）といった慢性疾患に加え、肺炎、肺癌等幅広く、病態を把握するための基礎的基盤も、換気力学や肺拡散能といった呼吸生理学、免疫（アレルギー）学、腫瘍学、薬理学と広範に及んでいる。近年、住宅をはじめとした環境の変化から、アレルギー疾患である喘息は全年齢層を通して増加し、高齢化に伴い COPD や肺癌も患者数が急増し大きな問題となっている。また、近年、新型インフルエンザや SARS をはじめとする各種新興ウイルス感染症、結核、薬剤耐性菌感染症、バイオテロリズム、輸入感染症などが問題となっており、医療の進歩に伴う高齢化・易感染性宿主の増加や感染症の“原因微生物の多様化”、そして感染症の“グローバル化・ボーダーレス化”なども相まって、感染症診療・感染制御は今や世界中のすべての医療関連施設における最重要課題となっている。このような呼吸器分野、感染症分野の疾患の多様化、変貌に的確に対応していくためには、リアルタイムに“最新情報の収集・共有化”をはかり、それらの情報を基に“連携・協力”して対応していくことが重要で、特に、地域における中核拠点形成・人材育成システムの整備をはかり、呼吸器疾患、感染症疾患についての基礎および臨床的研究、疫学情報の集積・解析・情報公開、診療体制の確立、医療従事者および学生への教育体制の充実が急務となっている。

東北大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」）は、これまで呼吸器内科学分野において我が国をリードする優れた研究・診療業績を挙げ、呼吸器疾患の病態解析、診断治療に大きな貢献を果たしてきた。また、感染制御・感染症診療の分野では、感染制御・検査診断学分野・臨床微生物解析治療学寄附講座（平成 21 年 2 月～平成 24 年 1 月）・感染症診療地域連携寄附講座などが連携して、東北大学病院における感染症コンサルテーション、感染症対策を実践するとともに、感染症クライシスマネジメント人材育成プログラム（Training program for Crisis Management in Infectious Diseases; TCMID）の立ち上げによる感染症危機管理の人材育成、東北感染制御ネットワークの構築による宮城県・東北地域における感染症に関する臨床・基礎研究の推進、診療支援・地域連携体制の確立など、我が国の感染症診療・感染制御のモデルとなる体制を確立して大きな成果をあげてきた。

しかしながら環境要因の変化に伴うアレルギー性呼吸器疾患の増加、高齢化に伴う慢性閉塞性肺疾患、

悪性腫瘍の増加、さらには感染症のグローバル化・ボーダーレス化に伴い、今後、呼吸器分野、感染症分野における基礎的・臨床的研究の充実、人材育成や教育システムの構築、質の高い診療の実践など、両分野における研究・教育・診療に関するさらなる進展が望まれており、このような情勢から、本研究科と呼吸器・感染症領域の研究・教育・診療を連携しながら推進する新たな地域拠点を整備することが喫緊の課題になっている。

宮城県立循環器・呼吸器病センターは日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会認定医制度の認定施設として各種呼吸器疾患の診療を行うとともに、感染症制御病棟として50床の結核医療の稼働病床を有し、宮城県における唯一の専門的結核診療施設として大きく貢献している。さらに新興・再興感染症など感染力や重篤性の点から最も危険性が高いとされる呼吸器感染症に対応できる高度陰圧個室2床および2類感染症に対応できる陰圧個室6床を備えている。このように病院施設のハード面では優れているものの、慢性的な医師不足により十分活用できていないのが現状である。

このような背景から、本研究科と地域における呼吸器・感染症疾患の診療・臨床研究拠点である宮城県立循環器・呼吸器病センターとの間で、研究とその研究成果の臨床応用、また、呼吸器・感染症の研究・教育・診療に関わる専門家育成の推進のために、連携に関する基本協定を締結することは極めて重要である。

講座設置（臨床呼吸器・感染症学講座）の概要

呼吸器疾患は、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）といった慢性疾患に加え、肺炎、肺癌等、多岐にわたる疾患を含んでおり、その診断・治療を迅速かつ的確に行い、呼吸機能を維持していくことは生命維持に欠くことができない重要なものとなっている。しかし一方で、肺（呼吸器）は常に換気によって外界とも接するため、感染やアレルギーといった様々な免疫反応が生じることや、環境要因や喫煙・加齢に伴う慢性閉塞性肺疾患や肺癌の増加などのさまざまな課題が山積しており、形態学、生理学、免疫学、さらには分子生物学・遺伝学的観点からの病態解析、診断治療に関する基礎的・臨床的研究の進展が強く望まれている。

また、感染症は、上気道炎・肺炎・肺化膿症・結核などの呼吸器感染症、尿路感染症、敗血症・脳炎・髄膜炎などの全身性・中枢神経性感染症など、種々の局所性・全身性疾患で、細菌、ウイルス、真菌、原虫・寄生虫など多様な微生物が原因となる疾患である。特に肺炎は日本国民の死亡原因の4位を占める疾患であり、インフルエンザを含めた呼吸器感染症の診断と治療の臨床的重要性は極めて大きいものがある。また、衛生状態が改善した現在においても国内における結核の頻度は先進国の中でも非常に高く、加えてMRSAや多剤耐性緑膿菌・多剤耐性アシネトバクターなどの薬剤耐性菌による院内感染事例の多発、ノロウイルス、ハイブリッド化した大腸菌による腸管感染症のアウトブレイクなど、さまざまな新興・再興感染症が次々と出現し、社会問題となっている。

今回、新規に「臨床呼吸器・感染症学講座」を設置し、呼吸器ならびに肺炎や結核などの感染症を中心として、臨床呼吸器病学ならびに臨床感染症学の研究・教育・診療体制の充実、呼吸器・感染症疾患の病態解明と新たな診断法および予防・治療法の開発や臨床疫学的研究、地域における種々の診療支援を行うことで、東北大学病院や宮城県立循環器・呼吸器病センターをはじめとする東北地域における呼吸器・感染症疾患の研究・教育・実地診療をさらに充実させる。

具体的な本連携講座の設置目的は、関連講座・部門との協力のもと、本研究科・東北大学病院および宮城県立循環器・呼吸器病センターにおいて以下の6点の機能を網羅することである。

- ① 呼吸器・感染症卒前・卒後教育センターとしての機能
- ② 感染症診療センターとしての機能
- ③ 感染症サーベイランス・EBMセンターとしての機能
- ④ Semi-オープンラボ形式による呼吸器・感染症研究センターとしての機能

- ⑤ 広域感染症診断・総合検査センターとしての機能
- ⑥ 海外提携病院・研究機関との交流センターとしての機能

連携協力の形態と範囲

東北大学大学院医学系研究科に次の連携講座を設置する。

名称：臨床呼吸器・感染症学講座

分野構成：呼吸器病態解析学分野

感染症治療学分野

教員数：各分野 客員教授1名

教育場所：東北大学大学院医学系研究科及び宮城県立循環器・呼吸器病センター

基本協定に関しては、次に掲げる事項について、連携協力を行う。

1. 共同研究の推進
2. 人材育成の推進
3. 研究者の相互交流
4. 研究設備の相互利用
5. 研究資源の相互利用
6. 知的財産の管理活用
7. 関連する研究成果等の情報交換
8. その他両者間で合意した事項

(お問い合わせ先)

東北大学大学院医学系研究科 感染制御・検査診断学分野 教授

仙台市青葉区星陵町1番1号

賀来 満夫 (かく みつお)

TEL: 022-717-7373

FAX: 022-717-7390

東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野 教授

仙台市青葉区星陵町1番1号

一ノ瀬 正和 (いちのせ まさかず)

TEL: 022-717-8534

FAX: 022-717-8549

宮城県立循環器・呼吸器病センター 院長

近内 利明 (こんない としあき)

宮城県栗原市瀬峰根岸 55-2

TEL: 0228-38-3151

FAX: 0228-38-3868

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

稲田 仁 (いなだ ひとし)

TEL: 022-717-7891

FAX: 022-717-8187

Eメール: pr-office@med.tohoku.ac.jp